

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



左：支援事業報告：グリーンベルトジオラマ完成、上段右：活躍する会員たち：畑中めぐみさん 恩師の浅野みどり先生と一緒に、下段右：支部・部局便り：ロン ベトナム司法大臣・全学同窓会ベトナム支部長の歓迎夕食会  
Left: The completed diorama of the Central Library Green Belt; Upper Right: Megumi Hatanaka with her former teacher, Midori Asano; Bottom Right: Welcome Dinner for Minister of Justice, Vietnam and NUAL Vietnam Branch Chairperson, Le Thanh Long

## Contents

特集1 豊田章一郎前会長との思い出	2
Memories of Shoichiro Toyoda	
特集2 第6回名古屋大学同窓会サミット・ 交流会の開催	4
The 6 <sup>th</sup> Summit Meeting of NUAL Associations	
活躍する会員たち	6
NUAL People in Action	

特集3 名古屋大学全学同窓会講演会(ウェビナー) 報告	10
Report on the NUAL 2022 Lecture (webinar)	
同窓会ニュース	11
NUAL News	
事務局からのお知らせ	16
From the NUAL Office	

特集では、過日逝去された豊田章一郎全学同窓会前会長・名誉会長との思い出を同窓会副会長の伊藤先生からお寄せいただきました。また、名古屋大学同窓会サミット・全学同窓会講演会の様子もお伝えします。活躍する会員たちのコーナーでは、名古屋芸術大学講師としてご活躍の加藤一晃さん、愛知こどもホスピスプロジェクト代表理事としてご活躍の畑中めぐみさんにお話しいただきます。

In our special features, NUAL Vice President Itoh shares his memories of the late Shoichiro Toyoda, Honorary President of NUAL. We also report on the Summit Meeting of NUAL Associations and the NUAL Lecture. In NUAL People in Action, we hear from Mr. Kazuaki Katou, now working as a lecturer at Nagoya University of the Arts, and Dr. Megumi Hatanaka, Representative Director of Aichi Children's Hospice.

# 豊田章一郎前会長との思い出

## Memories of Shoichiro Toyoda

名古屋大学全学同窓会副会長  
伊藤 義人



### 1. はじめに

令和5年2月14日にご逝去された名古屋大学全学同窓会の前会長・名誉会長の豊田章一郎氏の訃報に接して、びっくりするとともに大変な哀しみにおそわれました。

名古屋大学全学同窓会の初代会長として就任され、17年間にわたり会長職をおつとめいただき、平成21年10月からは名誉会長としてご活動いただいております。豊田会長時代は、私は代表幹事として、年に数回はお会いして、種々のご指導をいただきました。

### 2. 名古屋大学全学同窓会の設立と会長就任

名古屋大学全学同窓会は、平成16年度の国立大学の法人化を控えた、平成14年10月27日(日)に設立されました(写真1)。これは、全学同窓会の設立理念にありますように、名古屋大学も法人化されれば、独自の経営や社会とのつながりが必要となり、社会と大学を繋ぐ必須の組織として、部局単位の同窓会だけではなく、大学全体レベルの全学同窓会が必要という趣旨でした<sup>1), 2)</sup>。

名古屋大学の評議会で全学同窓会の設立準備委員会の設置を承認いただき、私が委員長になりました。会長を是非とも豊田章一郎氏にお願いしたいということになり、当時の松尾稔総長にご相談したところ、お忙しい方なので難しいかもしれないということでした。しかし、予想に反してご快諾をいただき



写真1 全学同窓会設立総会での会長挨拶

ました。

会長就任後は、入学式や卒業式の来賓としてご挨拶をいただくとともに、ホームカミングデイに行われている全学同窓会の評議員会や「名古屋大学の集い」にも同窓会を代表してご出席いただくだけでなく、前日夜に開催される全学同窓会の海外支部の支部長などの留学経験者の歓迎会にもご参加いただきました。この海外支部歓迎会では、豊田会長は外国人卒業生と親しくお話をされ、大変よい国際交流の会だとおほめをいただきました(写真2)。このように、全学同窓会主催の集まりには、ご都合のつく限り欠かさず代表としてご出席いただきました。責任感を強くお持ちになって会長を引き受けられた印象を持ちました。

全学同窓会設立10周年記念のときには、赤崎先生・天野先生のノーベル物理学賞受賞が重なり大変喜ばれました(写真3)。

名古屋大学基金に関しても募金委員会の会長をされ、200億円達成に公私ともに大変ご尽力いただきました。名古屋大学のためにどんなことでも協力をするとおっしゃっていました。

### 3. 豊田会長との思い出

豊田会長とは、全学同窓会の運営や評議員会の議事内容について毎年数度、トヨタ自動車を訪問して打ち合わせをしていました。30分の予定がしばしば1時間くらいになりました。秘書の方が、メモを差し入れて、次の予定を毎回知らせていました。豊田会長は、こちらが用意した項目だけでなく、名古屋大学と全学同窓会の状況などについて種々の質問をされ、時間を忘れての懇談によくになりました。人名や関連の数値について問われて困ったことも何度もありました。例えば、名古屋大学の初代からの歴代の学長名を問われ、全てを答えることができず冷や汗をかきました。

ポストドクター問題などにも造詣が深く、何とかしないと日本はよくなるしないとおっしゃっていました。



写真2 海外支部歓迎会での懇談



写真3 全学同窓会設立10周年記念ホームカミングデイでの天野先生への花束贈呈

円高で自動車産業が苦しかった時には、おちゃめな言い方で「2台目の車を伊藤さんもどうですか」とおっしゃり驚きました。

名古屋大学に貢献した卒業生に授与する名古屋大学フェローの称号がつくられたとき、総長がお願いに伺われた際に同席しましたが、1人目としての受章は固辞されたため、平成21年3月25日に2人目の受章者になりました。目立つことはできるだけ避けたいということのようでした。全学同窓会10周年記念祝賀会の豊田講堂から学内会場への移動も車をおすすめしたのですが、他の人が歩くのであれば同様にしたいとおっしゃいました。

全学同窓会の海外支部の設立は、2005年5月5日の韓国支部が始まりで、豊田会長時代に15支部を数え、大変良い活動であると評価をいただきました。特に、フィリピン支部の立ち上げは、平成26年12月20日（土）に、フィリピンの首都マニラを中心街から少し離れたEDSA Shangri-laホテルのSantan Roomで行われましたが、ご夫妻でご参加いただき、フィリピン支部の卒業生は大感激していました（写真4）。

平成23年にタイ支部長のアピナンスプラサートさんがカセサート大学獣医学部長に就任され、卒業式に学位を取得した大学のアカデミックガウンを着る必要があり、正式な名古屋大学のアカデミックガウン制定の要請がありました。豊田会長とご相談して、緑を基調色とした名古屋大学アカデミックガウンを全学同窓会で作り、名古屋大学へ寄付をして、名古屋大学の卒業式・修了式でも着用してもらえるようになりました（写真5）。なお、



写真4 フィリピン支部設立総会での記念写真



写真5 豊田会長からアカデミックガウンの寄贈目録の贈呈

このアカデミックガウンは、今も製造をタイへ委託しています。

豊田会長は、日頃は穏やかで優しい方でしたが、叱られた2つの思い出があります。1つ目は、全学同窓会の設立当初の毎年の総会を豊田講堂で行っていましたが、2年目以降に広い講堂なのに非常に少ない参加者で開催したときでした。設立時は広く関心を持たれ多くの方々に参加いただきましたが、その後は全学同窓会の広報が行き届かずそのような状態になった時に、同窓会関係者の人数の方が参加者より多いのではと苦言をいただきました。そこで、ホームカミングデイを大学に主催してもらい、その中で10年ごとの周年記念の卒業生に、豊田会長と総長の連名で招待状を出して「名古屋大学の集い」を総会の代わりに実施して、参加者を増やすことに成功しました。

2つ目は、ホームカミングデイの前日夜に実施している海外支部歓迎会を狭いレストランで行っていたときのことでした。来日した海外支部長などの留学経験者と全学同窓会と大学の幹部で構成される20名ほどの小さな歓迎会は、海外交流として大変意義があると喜ばれていましたが、会場が狭すぎると言われ、3回目にはかなり厳しく叱られて驚きました。その次の年から、広い会場で開催して大変喜ばれました。

#### 4. おわりに

訃報を聞いてすぐに、中京テレビから豊田会長と関係の深い名古屋大学の誰かにインタビューをしたいということで、私に対応してニュースで流れました。この原稿で書きましたように、長年にわたり、名古屋大学と名古屋大学全学同窓会のことを大変大事にされていたことや人柄についての思い出を話しました。

豊田章一郎氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 伊藤義人：全学同窓会の設立－名古屋大学全学同窓会NUAL－、学会報、No.838 pp.180～183、2003年。
- 2) 名古屋大学全学同窓会 10周年記念誌 2012年10月20日発行。

# 第6回名古屋大学同窓会サミット・交流会の開催

## The 6<sup>th</sup> Summit Meeting of NUAL Associations

名古屋大学同窓会サミット議長  
名古屋大学全学同窓会副会長

伊藤 義人

### 1. はじめに

コロナ禍が4年にも渡り、同窓会活動も大きな制約を受けてきました。名古屋大学同窓会サミットは、令和2年度は開催を見送り、令和3年度の第4回は遠隔のオンライン開催となり、昨年度の第5回は対面とオンライン（Zoom）のハイブリッドで開催されました。今年度の第6回は、7月1日（土）に本部1号館第1会議室での原則対面ですが、遠隔のオンライン参加も可能として開催しました。サミット後には、4年ぶりに交流会も開催しました。非常に残念なことに、松尾機構長、杉山総長及び木村副総長（代表幹事）は、体調不良のため急遽欠席になってしまいました。そのため、大学からは佐久間副総長と同窓会事務職員の参加となり、全学同窓会からは、岡田、齋藤、西村、伊藤の4副会長、そして部局・学科・専攻同窓会からは42名の参加になりました（写真1）。

### 2. 名古屋大学同窓会サミット

最初に、岡田副会長と佐久間副総長から、ご挨拶をいただいた後で、参加者全員の簡単な自己紹介を行いました（写真2）。

直近3年間に類似の事前アンケート（33同窓会回答）を行っており、ここ3年間の各同窓会の動向をまとめたものを私から説明し、その後、意見交換を行いました。

#### 1) コロナ禍後の同窓会活動について

ほぼコロナ禍も終息し、図1のように対面での活動が増えていますが、対面とオンラインのデュアルモードでの活動も多く残っています。



写真1 名古屋大学同窓会サミット（本部1号館第1会議室）

#### 2) 新たな連携・交流の可能性について

新たな連携・交流の可能性について、配付資料に基づいた説明の後で、以下のような意見交換がありました。

- ・ 学内の会議室を講演会等で借りる際に、使用料は部局毎に管理されているため、大学全体で統一することは難しい。使用目的によっては、使用料が免除されることもあるため、部局と同窓会で調整を行いながら、対応いただきたい。
- ・ 卒業生への広報については、名古屋大学は国立大学の中ではトップレベルである。当初、全学同窓会と部局同窓会で協力して電子名簿のサーバーを立ち上げ、全卒業生の名簿管理をしていたが、現在は大学へ移管し大学側が卒業生等電子名簿として管理している。大学と全学同窓会で連携し、住所が登録されている卒業生向けに年1回、紙媒体

I. ①貴同窓会では、令和4年度の同窓会行事（総会、イベント等）をどのように開催しましたか。（複数選択可）

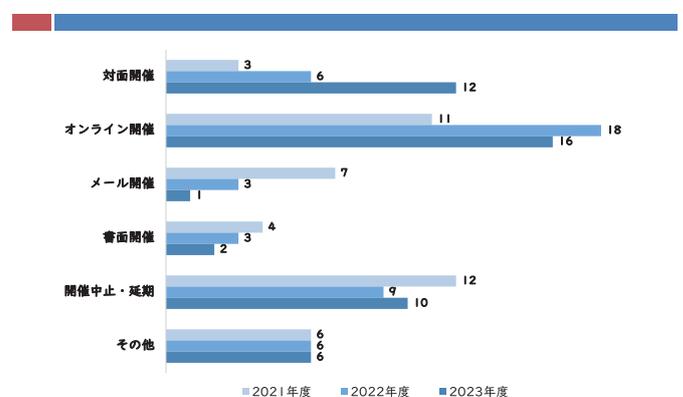


図1 同窓会活動の実施形態



写真2 岡田副会長の挨拶

による情報発信も行っている。

- ・ 卒業生等電子名簿について、各部署同窓会の名簿担当者へ利用権限を付与しているため、各部署同窓会名簿の閲覧、更新、ダウンロードが可能である。
- ・ 国際開発研究科は、学生の8割が外国人であり、授業は全て英語で行っている。また、同窓会の理事会も英語で行っている。英語での発信を強化していただくと有難い。
- ・ ニュースレター NUAL については、全学同窓会 Web サイトにも掲載しており、ダウンロードも可能である。
- ・ 学生会館については、再開発により、2025年1月から2029年8月まで使用できなくなる（旧館部分は曳家をして残す予定）。名古屋大学東京連絡所も使用できなくなるため、各部署同窓会でもこの情報を共有していただきたい。

### 3) 名古屋大学基金（特定基金）の現状報告と今後の連携について

Development Office 大西課長から、名古屋大学基金（特定基金）の現状報告と今後の連携について、配付資料に基づき説明があった後、以下の意見交換がありました。

- ・ 工事中のグリーンベルトについて、何を作る予定か。
- ・ 名古屋大学と岐阜大学が東海国立大学機構になり、岐阜大学と一緒に新しい教育を作っていくために、学生、卒業生、企業、市民が集える場所として半地下の施設を建築中である。
- ・ 卒業生等電子名簿は、卒業生と退職した教職員が登録されており、メールアドレスが登録されている方へ同窓生向け

メールマガジンの配信を行っている。各同窓会や教職員へのメールマガジンの配信については、今後検討する。

- ・ 新たに特定基金を設置することは可能である。

### 4) 部署同窓会、全学同窓会および大学の今後の連携について

配付資料の部署等同窓会の会長・幹事長等名簿を提示しているため、今後の連携・交流に利用いただきたい旨の説明を行いました。

なお、名古屋大学同窓会サミットの前に、隣の第2会議室で、工学部系同窓会のみ同窓会サミットも1時間程度行われました。

## 3. 交流会

4年ぶりの交流会が、同窓会サミット後、シンポジウムホールのユニバーサルクラブで開催されました。齋藤副会長の挨拶・乾杯（写真3）の後で、各部署・学科・専攻同窓会の代表から、それぞれの同窓会が抱えている種々の課題について忌憚のない発言がありました。最後に西村副会長の閉会の辞で、大変楽しい有意義な交流会となりました（写真4）。

## 4. おわりに

多くの方々に参加いただき、同窓会サミットでは、例年以上に多くの率直な意見をいただきました。交流会では、同窓会運営の人材不足や会費収入の減少など、コロナ禍の中でさらに苦しくなった同窓会の様子がわかりました。来年度以降も名古屋大学同窓会サミットの実施が求められました。



写真3 齋藤副会長の挨拶・乾杯



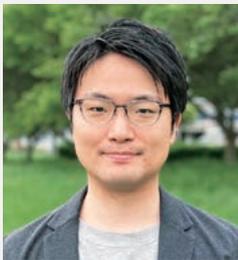
写真4 交流会（ユニバーサルクラブ）

## 活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第40回は、教育発達科学研究科を満期退学し名古屋芸術大学芸術学部講師としてご活躍の加藤一晃さん、医学系研究科で博士学位を取得後しNPO 法人愛知こどもホスピスプロジェクト代表理事としてご活躍の畑中めぐみさんにお話しいただきます。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. For this 40<sup>th</sup> installment, we spoke to Mr. Kazuaki Katou, who attended the Graduate School of Education and Human Development and is now a lecturer at Nagoya University of the Arts, and Dr. Megumi Hatanaka, who received her PhD from the Graduate School of Medicine and is now the Representative Director of Aichi Children's Hospice.

かとう かずあき  
加藤 一晃さん



### ■略歴

- 1991年 静岡県生まれ
- 2010年 名古屋大学教育学部入学
- 2014年 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教育科学専攻 博士課程前期課程入学
- 2021年 同研究科 博士後期課程 単位取得満期退学
- 2017～2018年 日本学術振興会特別研究員 (DC2)
- 2019～2021年 愛知教育大学、中京大学等 非常勤講師
- 2022年～現在 名古屋芸術大学芸術学部 講師

### 研究活動について

高校まで静岡で過ごし、2010年4月、名古屋大学教育学部に入學しました。その後2021年9月に教育発達科学研究科の博士後期課程を満期退学するまで、10年以上も名古屋大学に籍を置いていたことになります。あまりに期間が長く、また現在も近くに住んでいるので、いまだに名古屋大学の一員のような気持ちでいます。

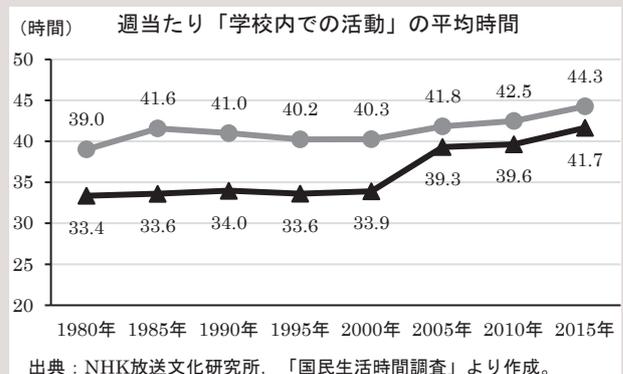
私の専門は教育社会学です。教育に関する研究領域の中でも、実証的な手法に重きを置いた学問分野です。質問紙調査やインタビュー、参与観察、新聞・雑誌記事の分析など、多彩なデータから教育の現状や課題について論じることを得意としています。私自身は、簡単な統計分析をもとに中高生の行動や意識の変化を明らかにする研究に取り組んできました。

具体的にいうと、中学生や高校生の部活動への関わり方がどのように変わってきたのか、ということテーマに研究しています。部活動というと、昨今の教員の多忙化問題を連想される方が多いのではないかと思います。しかし、教員の多忙化問題に隠れてあまり注目されませんが、生徒の部活動への関わり方はこれまでにだいぶ変わってきました。たとえば、過去のデータを集計し直すと、1980年ごろの高校生と比べて、近年の高校生は週当た

り8時間ほど学校で過ごす時間が増えています。丸一日分、学校滞在時間が増えたということです。そこまで学校に縛られる時間が増えると、当然自由時間は減りますし、学校から帰って勉強する時間もとれなくなります。このように高校生活に多大な影響を及ぼしているのが部活動ですので、教員の多忙化問題だけでなく、生徒の関わり方も見直す必要があるのではないかと、というのが様々なデータに触れての私の考えです。

### 現在の仕事について

2022年4月から、北名古屋市にある名古屋芸術大学に講師として着任しました。芸術大学に勤めているとは



中学生が学校で過ごす時間の増加を示すグラフ。

いえ、芸術のことはさっぱりわかりません。着任後1年が経って、ようやく芸大の雰囲気に慣れてきたところです。キャンパスには写真のような学生の創作物がいたるところに設置されています。朝、研究室に向かう途中に、ブタの等身大の置き物が横たえられていて、彼に心の中であいさつするのが日課です。夜、トイレに行こうと暗い廊下を曲がると、等身大の女性像がいきなり現れて、心臓が止まりそうになります。

勤務校では主に、美術や音楽の教員免許取得を目指す学生に向けて、教職課程の授業をしています。たとえば、ある授業は次のように始めます。「明治維新のあと、新たな教育制度がつくられました。小学校が全国いたるところにつくられ、また大学がつくられたのもこの時期です。さて、それでは明治期の大学に入学したのは、どのような人たちだったのでしょうか?①元農民、②元商人、③元武士の中から選んでください」。

損得勘定が得意で学歴のメリットをよく知っていそうな、②の元商人でしょうか。「四民平等」で身分から自由になった①の元農民ではないか、という予想もありそうです。しかし、答えは③の元武士です。全人口の5%ほどに過ぎない元武士が、高等教育機関の入学者の約6割を占めていました。なぜでしょうか。江戸時代に特権的な身分に立っていた元武士たちにとって、教育は高い社会的地位を維持するための重要なツールだったからです。

このようにタネ明かしをしながら、現代も続く教育と格差の問題に話題を移していきます。また実際の授業では、上記の三択からグー、チョキ、パーで全員に答えを出さ



授業中の様子。学生の髪色がカラフル。

せています。同僚の元中学校長の先生から「全員参加」の方法として教わったやり方です。教育が専門ではない学生でも、楽しそうに答えてくれます。

### 名古屋大学で得たもの

実は名大の大学院に進学したのは、「言葉を取り戻すため」という理由からでした。恥ずかしながら、学部生時代の私は理由や根拠なしに軽薄に発言するタイプで、それを自分の欠点だと認識することもなかったように思います。しかし、学部の演習で何らかの発言をした際に、担当の先生から「なぜそう言えるのか」と問われ、何も答えることができないという出来事がありました。それ以来、きちんと理由や根拠をもとに発言するように気を付け始めたのですが、情けないことに、今度は言葉がすぐに出てこなくなりました。アルバイト中にもそんな調子で、日常生活に本格的な支障が出る一步手前といった状態でした。これから自分が生きていくには、言葉の使い方や、考えのまとめ方、伝え方を学び直さなければならないのではないかと。そう考えたのが大学院進学のもっと大きな理由でした。

大学院進学後は、言葉に真摯に向き合う先生方、院生仲間とともに、ゼミでの発表の準備や、論文の執筆、学会での研究報告など、まさに言葉を操るトレーニングの機会を豊富に得ることができました。そのおかげで、現在の勤務校では自信をもって授業をすることができています。私が名古屋大学で得たのは、一度言葉を失い、また取り戻すという、遠回りながらも大切な経験であったように思います。



大学に入ると出迎えてくれるオブジェたち

はたなか  
畑中 めぐみさん



博士（看護学）、看護師、保健師

■略歴

2002年 名古屋大学医学部保健学科看護学専攻 卒業

2002年～2005年 大阪府立母子保健総合医療センター

2008年 首都大学東京大学院人間健康科学研究科看護科学系博士前期課程修了

2008年～2009年 名古屋大学医学部附属病院

2010年～2016年 中部大学保健看護学科看護実習センター（小児看護学 助教）

2020年～ 国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター（非常勤職員）

2021年 名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程修了（博士・看護学）

2023年～ NPO 法人愛知こどもホスピスプロジェクト 代表理事

### 学部時代について

私は、大阪出身で名古屋に知人や親戚もおらず、とても寂しい大学生活のスタートを切りましたが、「こどもの看護がしたい」という強い思いをもって入学したため、ゼミは迷わず小児看護の石黒彩子先生のゼミに入りました。病院実習は本当に大変でしたが、患者さんとの関わりを通じてたくさんのことを学ばせていただきました。ボート部のマネージャーとして漕手や仲間とともに新井紀男部長のもとインカレベスト8を目指した時間は、かけがえのない青春の思い出です。

### 小児がん病棟での経験について

就職先は迷わずこども病院を選びました。配属先は小児がん病棟でした。ここでの小児がんのこどもたちや闘病生活を懸命に支えるご家族との出会いが、私の今の

人生の礎となっています。今では8割が治ると言われている小児がんですが、2割のこどもは亡くなるという現実があります。私も、たくさんのおこもたちをお空に見送りました。命の限りを感じる中でも、こども達は日々キラキラ輝きながら成長を遂げていました。最後の瞬間までこどもがこどもらしくいられるように、看護師として本気でこどもたちと遊び、本気で命と向き合ってきました。

### 大学院時代について

看護師として自分の考えの未熟さや視野の狭さに苦しむことも多い中、大学院への進学を決断しました。その頃はすでに結婚もしていましたが、私だけ東京に逆単身赴任をしました。小児がん看護の研究者として憧れる戈木クレイグヒル滋子先生のもと、質的研究方法のグラントッドセオリーアプローチを学び、物事の本質を多角的

にとらえる方策について徹底的に学ぶことができました。そのことは今の私の強みとなっていると感じています。

その後、名古屋大学大学院の博士後期課程に進みました。そこでは浅野みどり先生に師事し小児がん患者の母親のグリーフ



小児病棟勤務の頃



漕艇部マネージャーの頃

について研究を行いました。5年半の在学中には3人目の出産も経験し家庭や仕事、研究との両立が難しく、修了を諦めそうになることが何度もありました。そんな私を浅野先生は研究者として、そして働く女性として素晴らしいモデルを示してくださり励まし支えてくださいました。修了できた時には浅野先生と一緒に泣いて喜びました。感謝の気持ちでいっぱいです。

### 「NPO 法人愛知子どもホスピスプロジェクト」を立ち上げて

私は、小学校3年生の時に腎臓の病気を経験し、「病気をしたら、悪いことばかりだ」という卑屈な思いを抱えながら小学校生活を過ごしました。しかし、そんな思いをなんとか払拭したい思いで、難病の子ども支援のボランティア活動に積極的に参加しました。「病気になってもいいことがあるかも!」と思えるような場や、それを支える熱い大人たちとの出会いは私の小学校時代の辛い気持ちを癒してくれました。その経験を小児がんをはじめとする生命にかかわる病気や障がいのある子どもとご家族の支援に役立てたい、と思い、まだ日本には大阪と横浜の2か所にしかないコミュニティ型子どもホスピス設立を目指し

NPO 法人を仲間と立ち上げました。

子どもホスピスは大人のホスピスと違い、穏やかな死を迎えるための場所ではありません。生命にかかわる病気や障がいのある子どもが遊びや学びをのびのび楽しみ、成長発達が保障される場、きょうだい・家族が安心して自分らしく家族らしく過ごせる居場所です。病気や障害があっても、こどもらしい日常が保障され、子どもの人権が守られる場がこの愛知にも必要です。子どもホスピスの建設には、国や行政からの補助金ではなく、寄附に頼るところが大きいです。誰かが動きださない限り、この日本に子どもホスピスはできないのが現状です。そんな中、先日は大村知事に要望書を提出し、支援をお願いして参りました。

当面の目標は、建物の建設に必要な資金集めと土地の確保です。社会から孤立しがちな生命にかかわる病気や障がいのある子どもとご家族が、発病から亡くなった後も集える第2のわが家としての「子どもホスピス」。その必要性を広く知っていただく活動を進めていこうと思います。

愛知子どもホスピスプロジェクト HP



大村知事に申し入れに行った際の写真

## 名古屋大学全学同窓会講演会（ウェビナー）報告

### 「2050年カーボンニュートラルを目指して」

講師：内山田 竹志氏（トヨタ自動車代表取締役会長）

#### Report on the NUAL 2022 Lecture (webinar)

名古屋大学全学同窓会代表幹事  
木村 彰吾



名古屋大学全学同窓会講演会が令和5年2月20日（月）に、学士会と共催の形で開催されました。対面形式とウェビナー形式のそれぞれ長所・短所も意識されるようになり、今回はロケーション・フリーというメリットを尊重しウェビナー形式で開催いたしました。

今回は講師としてトヨタ自動車株式会社代表取締役会長（講演当時）の内山田竹志氏をお招きし「2050年カーボンニュートラルを目指して」というテーマでご講演を頂きました。関心の高いテーマということもあり、締め切り以前に予定を超える申込があり、ご参加できなかった皆様にはお詫び申し上げます。当日の参加者は450名を超え、名古屋大学全学同窓会会員のみならず、100名を超える学会会員の皆様にも参加いただきました。

慣例によりまして、代表幹事の挨拶、学士会の小堀康生事務局長の挨拶、代表幹事による内山田様の紹介の後、内山田様から画面共有により資料を提示しての講演となりました。

講演は、カーボンニュートラル実現に向けた取組、水素社会、トヨタ自動車の取組という3つをトピックとしてお話しされました。EV シフトがカーボンニュートラル実現の決め手という最近の論

調について、パワートレイン（手段）の議論だけでなく、燃料の議論が大事であることを指摘されました。エネルギー（燃料）を製造するのに、何から作るかによってCO2排出量が左右されること、現状ではBEVとHEVは変わらないことなどをお話しいただき、新たな気づきを得られたのではないのでしょうか。

その後、水素社会のお話に移り、中国でも商用車は水素を燃料として使われていることが紹介されました。水素を使う燃料電池車もカーボンニュートラル実現の決め手と考えられていますが、現状では水素そのもののコスト及びそれに関連するコストが高いこと、規制や社会的受容性などの課題があり、「作る、運ぶ、使う」ためには、既存の産業セクターを超えた協働が必要であることを主張されました。

最後にトヨタ自動車の取組として、FCシステムをさまざまなモビリティに活用し、パッケージ化した商品として提供すること、電力供給という新たな価値の提供、電気自動車ならではのモビリティの可能性を追求しつつカーカンパニーからモビリティカンパニーへの展開をご紹介いただきました。

お話の後、申込時にいただいた質問のいくつかにもご回答をいただきました。その回答の中で身近にできるカーボンニュートラルの取組として省エネの重要性を指摘されており、我々一人ひとりも気をつけたいと思います。

終了後のウェブによるアンケートでは、参加者の過半数から回答をいただきました。自由記載欄にも感想をたくさんご記入いただき、講演が大変好評であったと受け止めております。無事に開催できたことに感謝申し上げますとともに、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



講演する内山田氏



講演会スライド

## 支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

### 法学部 School of Law

#### レ・ティン・ロン ベトナム司法大臣の歓迎夕食会を開催

大学院法学研究科修士課程生であるレ・ティン・ロン ベトナム司法大臣が ASEAN・G7法務大臣会合に出席のため来日された機会に、7月7日(金)名古屋大学を訪問されました。大学では、水谷法美副総長、木村彰吾副総長・全学同窓会代表幹事と面談された後、同日午後7時から、名古屋市内の日本料理店で法学研究科・CALE（法政国際教育協力研究センター）主催の歓迎夕食会を行いました。

ロン司法大臣は、2000年に大学院法学研究科博士課程に入学され、2003年に博士号を取得されました。帰国後は、ベトナム司法省法整備総務局長、司法副大臣などを歴任し、2016年4月に司法大臣に就任されました。司法大臣として、2019年に続き2回目の名古屋大学訪問です。また、ロン大臣は2007年に名古屋大学全学同窓会がベトナム支部を設立した当初から支部長をつとめられています。

歓迎会は、法学部同窓生で名古屋大学全学同窓会の柴田昌治会長、各界の法学部同窓生、水谷副総長はじめ名大関係者、他大学、法曹界、産業界等からロン大臣やベトナムとご縁が深い方々約40名が参加しました。

会は村上正子 CALE センター長の開会挨拶で開始、柴田全学同窓会会長の音頭で乾杯し、それに続いてロン大臣の挨拶がありました。大臣が挨拶の中で、「ベトナム人留学生は、名大できちんと教えられたこと、そして日越友好関係のために貢献することを、卒業後も決して忘れません。」と述べられたことが印象的でした。

その後歓談に移り、ロン大臣は、同窓生はじめ参加者と



ロン司法大臣の挨拶

打ち解けた雰囲気の中で交流されました。また、留学時代の指導教員やなつかしい人達にも再会してことのほか喜んでおられました。

最後に、矢野昌浩法学研究科長の閉会の挨拶で会は終了し、大臣は名残を惜しみつつ午後9時過ぎに会場を後にされました。

今回の名古屋滞在は7月7日午後からの半日で、翌日午前中の便で帰国されましたが、忙しい日程の中でも名大を是非訪れたいという、ロン大臣の母校への思いを感じました。



柴田全学同窓会会長の音頭で乾杯

### 関東支部 NUAL Kantou Branch

#### 全学同窓会関東支部令和4年度講演・交流会開催

2023年2月19日(日)、関東支部令和4年度講演・交流会を学士会館において3年ぶりに開催しました。初めてのハイブリッド方式開催でしたが、現地46名、リモート52名と総勢98名の参加となりました。

会に先立ち、2月14日にお亡くなりになりました豊田章一郎全学同窓会初代会長のご冥福をお祈りし、全員で黙祷しました。

最初に杉山直総長の御挨拶、「名古屋大学の挑戦」と題して名古屋大学の現状についてのご報告をいただきました。グリーンベルトを半地下に掘り下げ、新たな学びの拠点として「東海プラットフォーム棟」の建設が行われており、2024年度中の竣工予定との紹介もありました。

続いての丹羽宇一郎支部長の挨拶は、同支部長が急遽欠席のため、片岡大造支部顧問から支部長挨拶の代読をいただきました。



森川教授の講演

講演会では、名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所森川高行教授に「モビリティサービスによる地域創生の取り組み」と題して、名古屋大学 COI (Center of Innovation) の成果を基に、モビリティ社会の構築、実践に

ついて講演していただきました。

交流会（懇親会）は着席スタイルで行い、最初に木村彰吾代表幹事からご挨拶をいただき、乾杯後それぞれの席にて交流が始まりました。

会も終わりに近づき、小堀康生学士会事務局長からの学士会紹介があり、第八高等学校寮歌「伊吹おろし」、学生歌「若き我等」と続いて歌い、石川靖文支部事務局次長の挨拶で閉会となりました。

(関東支部事務局長 岸 徹)

## 岐阜支部 NUAL GIFU Branch

### 令和5年度岐阜支部総会・交流会・特別公開講演会が開催されました

名古屋大学全学同窓会岐阜支部の令和5年度の支部総会・交流会・特別公開講演会が、令和5年5月6日（土）に、JR 岐阜駅に隣接する「じゅうろくプラザ」で開催されました。総会は、対面とZoomによるオンラインのデュアルモード開催となりました。特別公開講演会も、対面とYouTubeによる同時開催となりました。特別公開講演会は、3年前に企画し、コロナ禍で断念したもので、天野先生を講師として呼びしてリベンジしたものでした。特別公開講演会の後半では、天野先生と高校生や高専生とのパネルトークセッションを行いました。

総会は、対面出席者43名、オンライン1名でした。特別公開講演会は、対面出席者200名で、オンライン参加は70～80名でした。多くの高校生や高専生の参加もあり、天野先生からも大変楽しかったという感想をいただきました。

### 総会・交流会・特別公開講演会次第

令和5年5月6日（土）11:00～16:30

第一部：総会・交流会（じゅうろくプラザ5F 大会議室）

開会の辞 小笠原文雄（岐阜支部長）

来賓挨拶 杉山 直（名古屋大学総長）

松尾清一（東海国立大学機構長）

議 事 活動方針、会計報告、監査報告

記念撮影

交 流 会 昼食と懇談おたのしみ企画



総会参加者の記念写真

第二部：特別公開講演会（じゅうろくプラザ2F ホール）

講演題目 「SDGs に貢献する新しい半導体」

講 師 天野 浩（名古屋大学未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積研究センター長・卓越教授）

パネルトーク座長（小笠原支部長）・講師（天野先生）・高校生・高専生



パネルトークセッション

(岐阜支部監事／全学同窓会副会長 伊藤義人)

## 大学支援事業目録贈呈

令和5年4月21日(金)、令和5年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（令和4年度第2回）採択に目録が贈呈されました。

今回は、11件の応募から、表の3件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

所属・職名等	申請者	事業名
環境学研究科 教授	荒木 慶一	「まちづくりとひとづくり part 2 -名大建築60年」
名古屋大学高等教育研究センター 教授	加藤 真紀	名古屋大学高等教育研究センター25周年記念国際シンポジウム「高等教育研究と実践をつなぐ～私たちが次の4半世紀にできること」
こすもす保育園運営協議会議長 心の発達支援研究実践センター 教授	永田 雅子	仕事と子育ての両立を支援するための 環境整備



授与式の様子



集合写真

## 同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

### 卒業10周年記念企画

### 『名大同窓生 ONLINE MEET UP』

申請代表者：宮野浩治  
(Development Office 課長)

わたしたち名古屋大学 Development Office (DO 室) は、同窓生のみなさまと名古屋大学との関係構築を担当しており、つながりをもてるきっかけをご提供しております。このたびは、全学同窓会からのご支援を賜り、創基150周年を記念した第17回名古屋大学ホームカミング日のプレ企画として、今年で卒業10周年の同窓生の皆様（2010年、2011年学部卒）をお招きしたオンライン交流会を開催いたしました。同窓生同士で交流を深め、卒業生と大学ともつながりを取り戻すことを目的としました。

当日は、ビジネス同業種交流会・子育てパパママ交流会の2回にテーマを分けて行いました。延べ26名のみなさまにお申込をいただきました。ほぼ初対面同士で3、4名ずつグループに分かれて交流いただきました。いずれもやはり名大同窓生同士ということですぐに打ち解けられ、ビジネスにおける悩みを共有したり、子育てにおけるコロナ禍での過ごし方を情報交換したり、活発に交流いただきました。その後連絡先交換をして、後にオンライン飲み会を開催された方々もいたようです。また、久々に名古屋大学に関わり大学とのつながりを見直すきっかけともしていただきました。

参加者からは、「普段生活を送っているだけでは繋がることのできなかつた方たちと繋がれ、同じ世代の人たちと情報交換ができてよかった。」「たけになる情報を得られた」「色々な方の意見が聞けた」といったご感想を頂きました。

このイベントを開催するうえで、ご参加いただきました同窓生のみなさま、ご支援いただきました全学同窓会に、あらためまして厚く御礼申し上げます。これからも名古屋大学 Development Office (DO 室) では、同窓生のみなさまと名古屋大学との関係構築のため、こういった交流の場を企画して参りたいと思います。毎年10月の第3土曜日に開催しております名古屋大学ホームカミングデイもその一環として行っているイベントですので、同窓生のみなさまにはぜひご参加いただければ幸甚でございます。



オンライン交流会の様子

## 名古屋大学漕艇部110周年記念 新艇庫整備事業

申請代表者：大岡久美子  
(農学部資源生物科学科・3年(漕艇部主務)(申請当時))  
報告者：廣田大陽  
(工学部マテリアル工学科・3年(漕艇部副将))

伊勢湾台風からの復興を経て1968年に中川区庄内川沿いに建てられた名大漕艇部昭和艇庫(艇置き場兼合宿所)が現在の耐震基準を満たしていないことが判明し、2023年3月に新艇庫(令和艇庫)を大学に建ていただきました。令和艇庫の内部を整備するために漕艇部支援事業を名古屋大学基金に設置しました。皆様からの多大なご支援に御礼申し上げます。これに加えて、全学同窓会からのご支援により3段ベッドを複数台購入させていただきました。一般に流通しているベッドでは小さいため、特注品に対応してくれる家具製作会社を探して、漕艇部でこれまで使ってきたベッドと同じ外寸のものを作ってもらいました。

庄内川の漕艇部艇庫・合宿所では合わせて30名あまりの部員が寝泊まりして活動しています。令和艇庫の使用開始によ

り、同時に宿泊して活動できる女子選手の人数上限が大きくなるため、部活動の幅・規模ともに大きくなると考えています。

名古屋大学漕艇部は長い歴史を持つ部であり、代替りしながら55年間お世話になった昭和艇庫には現役部員だけでなく、数多くのOB・OGの思い出が詰まっています。取り壊しが決まった際には懐かしむ声を多くいただきました。令和艇庫も、現在活動している部員だけでなく、これから漕艇部の歴史を引き継いでいくまだ見ぬ後輩たちに愛されるものになればと思っています。

改めて、全学同窓会のご支援によって漕艇部の活動を続けていくことができることに感謝いたします。購入させていただいた3段ベッドは長く使い続けることができるよう丁寧に、しかし存分に使用させていただきます。



令和艇庫外観



令和艇庫3段ベッド

## ライブラリ・メイカースペースによるグリーンベルトジオラマ製作及び課外活動支援

申請代表者：佐久間淳一  
(附属図書館 館長)

中央図書館ではコロナ禍の令和3年7月に、学生、教職員が3Dプリンタ等のICT機器を活用して自由にモノづくりを実現できる施設「ライブラリ・メイカースペース」を設置しました。文理を問わず、学生・教職員を問わず、利用目的も個人的な操作体験から課外活動、研究目的まで、幅広くご利用いただいています。全学同窓会からご支援いただいた令和4年度後期には63名175件の利用があり、期の前半には機器を利用してみたいといった体験目的の利用が目立ち、期の後半は卒業論文のためや授業理解のための試作、発表物の作成が行われています。期を通じて学生の学びが進んできているものと思

われます。また期全体を通して、サークル活動での利用（人力飛行機やレーシングカー等の部品作成、ロケットのパラシュートや刺繍の制作等）があり、グループ利用では先輩・後輩といった学年をまたぐ利用もありました。コロナ禍で人との交流が途絶えてきましたが、ライブラリ・メイカースペースを介して先輩・後輩の交流が盛んに行われています。

令和5年4月から中央図書館前のグリーンベルトに東海国立大学機構プラットフォーム棟の整備が始まり、グリーンベルトは様変わりしています。ライブラリ・メイカースペースでは、これまで親しまれてきたグリーンベルトの姿を後世に残していくため、学生スタッフがジオラマを製作しました。現在は中央図書館入口に展示しています。本学の諸先輩が来学いただいた際には、このジオラマを囲んで、在りし日のグリーンベルトを思い出し、話が弾むことを期待しています。



全学同窓会大学支援事業で購入した3Dプリンタ



グリーンベルトジオラマ モニュメントを前にして

## 同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。  
詳細は、全学同窓会ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

### ○関東支部

#### 1) 令和5年度関東支部講演・交流会

開催日：2024年2月18日（日） 14：30～18：30（予定）

場 所：学士会館 202号室（東京都千代田区神田錦町）

1時間の講演会の後、交流会を行います。

\*詳細情報につきましては、今後、HP、メール等でお知らせいたします。

連絡先：関東支部事務局長 岸 徹

E-mail：nual.kanto@gmail.com

### ○遠州会

来年6月に、名大遠州会第25回同窓会・第13回総会を計画しております。2019年6月が直前の開催でしたので、久しぶりの開催となります。なお、今回、会場は変更しました。

名大遠州会第25回同窓会・第13回総会

日 時：2024年6月1日（土） 18：00～

場 所：ホテルクラウンパレス浜松

連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎

E-mail：enshuszk@yahoo.co.jp

全学同窓会 HP では行事案内等を掲載しています。また、HP では本ニュースレター「NUAL」のバックナンバーも掲載しています。ぜひご覧ください。

## ○全学同窓会・学士会主催 講演会・夕食会

### 講演会

日時 2024年2月2日(金) 16:00～17:30 (開場15:30～)

場所 名古屋大学野依記念学術交流館2階  
カンファレンスホール

講師 石黒 直樹 氏

愛知県医療療育総合センター総長

演題 「愛知県医療療育総合センターの軌跡  
—障害児・者の医療福祉のあゆみ—」



石黒直樹氏

### 夕食会

日時 2024年2月2日(金) 18:00～20:00

場所 名古屋大学  
野依記念学術交流館1階

※詳細、お申し込みは全学同窓会 HP  
(<https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>) に  
てご確認ください。



## 事務局からのお知らせ From the NUAL Office

### ●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

### ○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

### ○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

### ●住所等の登録・変更について NUAL member registration

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム (<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>) の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先 : 名古屋大学 Development Office (DO 室) 卒業生等電子名簿担当

052-747-6559 (9 : 00～16 : 00) sotugyoumeibo@t.mail.nagoya-u.ac.jp

## 「名古屋大学カード」の入会のご案内

### ～名古屋大学カードで繋がる大学支援～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

### ◆名古屋大学カード～ゴールド～

入会者は**20,000名**を超えています。



**年会費永年無料!**

家族会員様も1名様に限り無料。

**ポイントがたまる!**

家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

### 入会方法について

① WEB からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください  
⇒ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください  
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00～17:00)

● カード優待サービス企業の紹介 <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/information/OBservice.html>

● カード優待サービスの企業を募集しています。 詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

## 編集後記

コロナ禍が過ぎ、本同窓会支部や部局同窓会からの活動報告が増えてまいりました。同窓生の皆様には改めて本同窓会へのますますのご支援を頂けますようどうぞよろしく  
お願い申し上げます。

(全学同窓会広報委員会)

**NUAL**Newsletter No.40 令和5(2023)年10月発行

Nagoya University Alumni Association

**NUAL 名古屋大学全学同窓会**

〒464-8601 名古屋市中種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail [nual-jimu@t.mail.nagoya-u.ac.jp](mailto:nual-jimu@t.mail.nagoya-u.ac.jp)

ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集 : 名古屋大学全学同窓会広報委員会

